

実習・実技などへの取組み

医療専門職業人の育成には実践能力の向上が欠かせません。その上で、実習や実技、演習という学習形態は非常に大切になってきます。特に臨地実習は学生が様々な環境の変化の中でも主体的に学び続け、将来の保健医療福祉を支える人材を育成するにあたり大切な教科目です。実習を通して学校で学んだ知識や技術が身に付き、対象へ個別的な支援ができるようになります。また、対象やその家族と関わることで様々な反応を得、それぞれの立場を理解しようと努力したり、他職種との連携の必要性を理解したり、人間関係が基盤であることを学習していきます。そして、いうまでもなく臨地実習での学びは講義、実技演習での学びが基盤となります。実習は患者や利用者という人を相手に学習するという特殊な学習です。職業倫理を基盤に安全、安楽、自立を考慮した関わりでなければなりません。よって、学校での講義から演習、実技へ、そして実習へ結びつけていく過程の中で、学生一人一人に学習を保障していく必要があります。講義、実技、過程の中で、学生が課題を明確にしながら連続的に学習を重ねていくことによって、職業人としての実践力が備わってくると考え指導にあたっています。